

名戸ヶ谷ビオトープだより

第35号

2009年2月1日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://nadogaya-biotope.org/index.html>

発行責任者： 篠崎 将 Tel/Fax: 04-7173-6353

地元への浸透とより多くの市民による認知をめざして

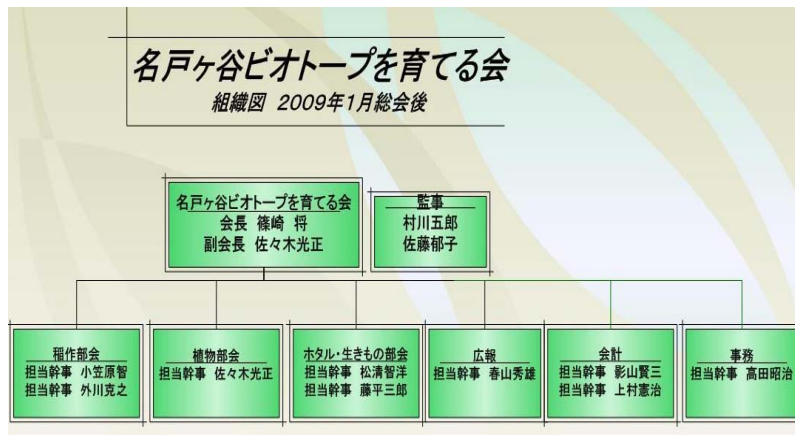
第7回総会 無事終了

第7回総会は1月24日(土)、午前10:00～11:00の日程で柏市南部クリーンセンター・ホールで開催された。柏市環境保全課の伊原課長による来賓挨拶と名戸ヶ谷ビオトープ代表の篠崎会長による挨拶に続き、才川副会長から2008年度活動報告、2009年度活動計画(案)の総括報告、ならびに各担当幹事による詳細な各部会報告を受けたあと、決算・監査報告・2009年度活動計画・予算案、を含む第1号～第3号(人事)の各議案を承認し、10:50分に終了した。



なお、人事面では、一身上の都合により、才川副会長、窪田幹事(稲作部会)、春山房子幹事(広報担当)が退任し、才川副会長のポストを植物部会の佐々木光正幹事が兼務。新役員(幹事)として藤平三郎氏(ホタル・生きもの部会・新)と佐藤郁子氏(監事・新)が承認された(新組織図参照)。次いで11:00より柄沢保彦氏による講演「名戸ヶ谷ビオトープの生きもの」がプロジェクターを使って約一時間に亘って行われ、12:00に散会した。

2009年度組織構成図



第1号議案 2008年度活動及び決算・監査報告

「稲作部会」からは「うるち米」に関して、有機肥料の散布とコナギ対策の徹底で味の向上・収量増(これまでの最高で306kg=5.7俵/反)の目標を達成できたとの報告。「もち米部門」でも有機肥料の散布により味・収量の両面で満足できる結果が得られた。収量は田圃一枚減にも拘わらず153kg(6俵/反)、とこちらも記録を更新。種籾を宮城から取り寄せ、苗を神埼で育て、非常によい状態で田植えができたことも要

因であった。特筆すべきこととしては、通年の活動に加えて、名戸小の協力を得て、秋(11月)の名戸小「ふれあいの集い」でビオトープ展を開催したこと。また、引き続き11月20日～12月11日の約3週間に亘って「名戸ヶ谷ビオトープ展」(柏市第二庁舎ロビー)が催され、市民から好評をもって迎えられたことが佐々木幹事から報告された。また、すでに「ビオトープだより」の中でも報告されているが、8～9月には県からの補助金と名戸小、PTA、地元町会の協力を得て足洗い場と簡易トイレが実現したことも報告された。又、イオンに於いても「名戸ヶ谷ビオトープ展」(1月13(火)～26(月))。

植物部会からはヒメヘビイチゴ(Bゾーンに定着)が年末の木道工事で消滅の恐れ、コガマも絶滅の恐れとの報告。植生調査(年間5回)の結果、イチョウウキゴケ(千葉県絶滅危惧種)を初めて確認。朝日新聞に写真入りで報道され、新聞を手に見学者が何人もビオトープを訪れた、との報告。

第2号議案 2009年度活動予定および予算案審議 全て提案通り承認。

第3号議案 退任する3役員(才川、窪田、春山(房))に代わり2名の新役員が承認された。(広報担当)

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会 2009年度活動予定表 (毎月の第3土曜日は合同作業日)

(注) 詳細の日程については、天候などの関係で変更もあります。直前の連絡に注意してください

全 般	稲作部会	植物部会	ホタル・生きもの部会
1/24 総会・講演会			
2/1 35号発行 2/7 定例幹事会	・畦補修・木道工事 (21日の合同作業日)		・ハイケボタル放流区域の草刈、等
3/7 定例幹事会	・畦補修・木道工事 (15日の合同作業日)	*ヒメヘビイチゴの移植 (合同作業日)	・アリガリガニ除去 ・ハイケボタル幼虫放流
4/1 36号発行 4/4 定例幹事会 *生きもの観察会	・18日 草刈り、他(合同作業日) ・29日(水田均し、草取り、肥料散布)	*草刈り、清掃作業(第3土曜日の9時～11時30分)	↓ *生きもの観察会
5/2 定例幹事会 *生態系調査(春)	・水田均し、代掻き(5/2) ・田植え準備(5/6)、・名戸小田植え(5/8)、・うるち米田植え(5/9)、・植え直し(5/16)	*帰化植物の刈り取り (5/16の合同作業日)	*生態系調査(春) ↓
6/1 37号発行 6/6 定例幹事会	・植え直し・草取り(6/6) ・草取り(6/20) ・名戸小の草取り(6/26)	*大型植物、帰化植物の刈り取り(6/13) ↓	*生態系調査 (5・6月のどちらかで実施)
7/5 定例幹事会	・雑草取り(7/4) ・草取り・追肥散布(7/18) ・雑草取り(7/25)	・大型植物、帰化植物の刈り取り(7/19) ↓	・生きもの観察会 ・ホタルの採卵と幼虫飼育(希望者) ↓
8/1 38号発行 8/2 定例幹事会 *生きもの観察会	・雀対策ネット(7/1) ・畦の雑草取り(7/15) ・草刈り(合同作業日) ・稲架けパイプ設置(8/29)	*大型植物、帰化植物の刈り取り(8/16、合同作業日に実施)	同 上
9/6 定例幹事会 *生態系調査(秋)	・雀ネットはずし(9/5) ・名戸小稲刈り(9/8) ・うるち米稲刈り(9/12) ・名戸小脱穀(9/25) ・うるち米脱穀(9/27)	・大型植物・帰化植物の刈り取り(9/20)	*生態系調査(秋) ↓
10/1 39号発行 10/4 定例幹事会	・パイプ解体(10/3) ・草刈・稲藁散布(10/17)	*大型植物の刈り取り (10/18)	・ビオトープ全域生態調査
11/1 定例幹事会 ・ビオトープ展(秋)	・ビオトープ収穫祭(11/1) ・名戸ヶ谷小ふれあいの集い(11/21)		・ホタルエリア水路整備(合同作業日)
12/1 40号発行 12/6 定例幹事会	・年末大掃除(12/20) ・しめ縄づくり(12/23)	*年末大掃除(12/20)	・年末大掃除(12/20)

名戸ヶ谷ビオトープの生きもの

柄沢 保彦氏



第7回総会の議事終了後、11～12時の約一時間に亘って、スライドを用いながら柄沢保彦氏による「名戸ヶ谷ビオトープの生きもの」と題した講演が行われた。柄沢先生は「名戸ヶ谷ビオトープを育てる会」創設当初から春・秋の「生きもの観察」と「生態系調査」に関わってこられた3名の講師の中のお一人である。現在の名戸ヶ谷ビオトープが誕生する遙か昔、1994年8月に柄沢先生が生きもの調査に入った頃の風景、とポリバケツ持参で水汲みに湧水前に行列する市民の姿。

また、現在のビオトープ掲示板裏手付近の水辺でオニヤンマがまだ豊富に産卵をくりかえしていた2001年の映像。

「網は初夏にはずすこと。オニヤンマの産卵は9月に終わり。草は刈らない方が・・・」、映像を見せながらの解説が続く。

アーカイブで名戸ヶ谷ビオトープの昔を振り返るかのように、植物ではカラスノエンドウ、ヒメヘビイチゴ、フランスギク、ハルジオンとヒメジオン。生きものではオニヤンマ、アシナガバチ、ツチイナゴ、コアシナガバチ、攻撃するスズメバチ、ニホンアカガエル、ヒキガエル、シュレーゲルアオガエル、アマガエル、真赤なシウジョウトンボの姿が次々とスクリーンに現れる。

2月初めに産卵するニホンアカガエルや貴重なヒメヘビイチゴ(p.4の「ビオトープの花」参照)の姿も現れる。「年代を追った生きもの映像記録を通して生態系が見えてくる」と最後に言われた柄沢先生のコトバが強く印象に残る講演であった。(広報担当)

名戸ヶ谷ビオトープ写真展示会を終えて

2008年11月20日から12月11日まで市役所ロビーにて「名戸ヶ谷ビオトープ写真展示会」を開きました。市役所を訪れた市民の方々など多くの市民が展示会に足を運んでいただきました。会場に用意したアンケート用紙にはさまざまな意見が書き込まれていました。その中から幾つかの意見・感想を紹介します。(佐々木 光正)



「子供たちも米作りを体験でき、食物の大切さと作る喜びを感じたことと思います」

「わが家の子供たちもお米作りを体験し、苦労や楽しさを知ったようです」

「子供たちの積極的な参加にこれからの環境が良くなっていくとの希望を感じました」

「子供たちに自然との触れ合いの大切さを実感させる貴重なビオトープの存在を初めて知りました」

「子供たちの笑顔が素敵で輝いています。柏で生きいきと子どもたちが育って欲しいです」

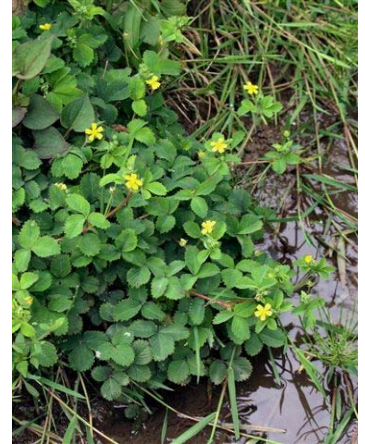
合同作業日の報告

2008年12月20日は月例の合同作業日。年末大掃除も兼ねて、ビオトープ全域に亘って清掃を行いました。また、毎年恒例の池の泥上げ作業もしました。ニホンアカガエルが年明けの2月頃に産卵しますが、その産卵場所にふさわしい環境に保つべく、池の泥上げやヨシの刈り取りを実施しました。年明けのカエルの産卵が楽しみです。(佐々木光正)



ビオトープの花

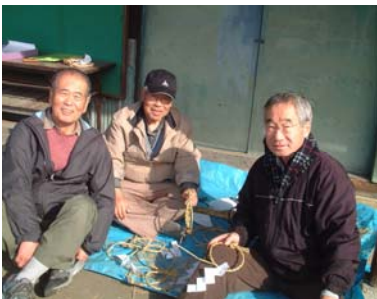
ビオトープに咲く花のうち、千葉県絶滅危惧種に指定されている植物はヒメヘビイチゴとイチョウウキゴケです。今日はそのヒメヘビイチゴをご紹介します。ヒメヘビイチゴはヘビイチゴと似ていますが、赤い大きな実は作らず、花も小さめです。A ゾーン北側の湧水近くに生えています。昔は対岸の名戸ヶ谷病院側の林縁湿地に大きく群生していましたが、今は駐車場に変わり、ビオトープ側に僅かに残っているだけです。山地に行けば道端にも結構沢山生えている植物ですが、柏市あたりでは少なく、加えて人目につきにくいこともあって、自生地は僅かしか見つけられていません。湿地性植物ではありませんが、柏市のような平地では湿地のような比較的冷涼気味な場所を好んで住んでいるようです。(佐々木光正)



ビオトープと私 第4回

「名戸ヶ谷ビオトープを育てる会」に参加して満5年が過ぎました。私にとってこれまでの体験はすべて驚きの連続でした。米作り、自然観察、環境整備（木道づくり・畦補強）、蛍の再生、小学生との共同作業、又、動植物に造詣の深い方々にも驚かされる日々でした。自分自身、自然と触れ合う機会がなかった子供時代に戻れると軽い気持ちで「退職後の大人の遊び場」感覚で参加したことが気恥かしい思いでした。活動場所であるビオトープは建物の傍らにあって、周辺とは一味違う特異な空間を提供していると思います。名戸ヶ谷小の学校ビオトープとして食の大切さを通じた「米作り」や、この場所で「自然って面白い」「自然ってすごい」「自然を守っていかねければ」と子供たちが生き物と共に育ってくれば良いな、と思います。いつまで活動できるか分かりませんが、それまで大切な私の遊び場です。(窪田孝志)

新藁での輪飾り作り



祝日の12月23日、10時から恒例の新藁による正月用輪飾り作りを木村家の物置小屋前で日光浴を楽しみながら行いました。今年の藁は良質で、芳ばしい香りがしました。散歩中の方も見学に立ち寄り、楽しく語らいながら、できあがった輪飾りをお土産に持ち帰りました。(影山賢三)

波板で田圃の畦直し ー不耕起稲作水田

昔、名戸ヶ谷ビオトープの田んぼは沼地であった。そのため、田圃の土は軟らかく、足は膝までは入り、移動に苦労します。畦は軟らかく、盛り上げても直ぐ崩れ、ザリガニにも穴を開けられて、水管理に苦労してきました。そこで、畦の片側に波板を敷設し、さらに畦に木道の廃材を敷く等で畦を補強し盛り土も多くし、波板を覆う位にしました。畦に草の根が張り、崩れ防止と自然美を期待しています。(才川寿磨)

編集後記 第7回総会も無事に終わり、「名戸ヶ谷ビオトープの生きもの」と題した柄沢先生の映像記録はビオトープの今昔と生態系の変化を生々しく伝え、名戸ヶ谷ビオトープの貴重な存在を再確認させてくれます。柏市庁舎での「ビオトープ写真展示」に寄せられた市民の声にもありましたが、ビオトープの存在の認知と活動紹介に一層努力しましょう。新会員拡大と併せて。(広報担当、春山)